

# AIと人間をシーソーにのせたら

3年 龍澤 未侑

近年AIが発達し、医療・創薬・製造業等様々な場面でAIの活躍が見られるようになった。AIに対抗する能力を身に付け、社会で必要とされる人間になることの必要性がうたわれているが、私はそうは思わない。というのも、やはり、AIには代用できない仕事があると思うからだ。

私は長年摂食障害で悩んでいた。人が怖かった。安心できる場所もなかった。相手にも感情があるため、ありのままの自分を理解してもらうことが難しかった。これ以上嫌われたくないけれど、話しかけて一層疎まれることが怖かった。かといってこのままではもっと人が離れて行ってしまう。私はどうしたらいいのかわからなかった。結果として自分で自分を追い込んでしまった。言葉をかけてくれる人が出てくると少しずつ症状が改善し、人の温もりは人の心を支えることができる気づいた。その人は、人っていいなと思えるほど私を成長させてくれた。もっと早い段階で声をかけてもらえたら、気持ちをとどまらせてくれたのではないかと今では思う。この経験から、私は人でなければできない仕事があると考えている。何気ない一言が大きな励みになるのだが、これは微妙な空気の違いを感じ取ることのできる人間だからこそできることだ。

人間誰しも悩みを抱える。吐き出せば心が晴れるとよく言われるが、相手が機械であってもそうだろうか。人が悩みを相談するとき求めているのは、解決方法ではなく、「自分を理解してくれる人がいる」という安心感ではないか。例えば「さみしい」という言葉を聞いたとき、AIはその正しい意味を分析して見つけ出す。一方人間は、声や表情も踏まえて相手がどんなさみしさを抱えているのか判断する。確かにAIは解決方法を提案することができるが、相手がその時本当に望む応えを返すことができない。人だからこそ、人の心に安らぎを与えることができるのだと思う。そしてこれらの行動は、決して特別なことではない。普段と様子が違う人を見つけたら、どうしたのかと気になるはずだ。我々がすべきことは、その自然と湧き上がる感情に対して素直に行動することだ。

しかし、人間が感情を持っているからこそ生じる問題もある。今の時代に必要なのは何か特別な能力を求めるのではなく、丁度良いバランスを保ちながら、AIと共存するための社会体制を整えることだ。例えば介護施設では、介護に疲れたという理由から生じる介護殺人が増えている。人は複雑な感情やストレスがあると正常な判断ができないので、それらをためないように、AIに任せることのできる仕事は委任すべきだ。しかし、AIはあくまで人間の補助だということを忘れてはならない。そのバランスを保つためには、監視機関を設けるのが良いと思う。まず専門機関をつくり、正しい判断をすることができる人材を育成する。そして、その人をどこにどれくらい配属させるかを決め、それぞれの現場に見合った線引きや定期的な監査をしてもらう。それぞれが独立して活動するのではなく、横に広いネットワークのつながりをつくり、情報を交換し合うことが大切だ。

今やAIは利便性の追求に使われている。商業への進出が著しく、例えば「カーテン開けて」と一声かければ自動的に動作するカーテンが発売された。このままAIの利用が進み続けると、本来人間がすべきことがより一層AI任せになってしまうのではないかと不

安が増す。今一度立ち止まり、人間ができること、やらなければならないことを見直すべきだ。